

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
駿台観光アンド外語ビジネス専門学校		昭和55年3月31日		豊田 基行		〒 561-0872 (住所) 大阪府豊中市寺内2丁目5番18号 (電話) 06-8865-1121																													
設置者名		設置認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人駿河台学園		昭和27年10月8日		山崎 良子		〒 101-0062 (住所) 東京都千代田区神田駿河台2丁目12番地 (電話) 03-5259-3100																													
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	外国語専門課程	鉄道サービス学科	平成28(2016)年度	-	-																														
学科の目的	専門知識の習得に加え、語学力の強化、実習、資格取得等を通じ、社会人基礎力やホスピタリティ精神を身に付けた鉄道業界で活躍できる人材の育成を図ること。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	専門知識の講義の他、ロールプレイングやインターンシップ、語学学習を通じ鉄道業界で求められる人材を育成する。<取得可能な資格>旅行地理検定、旅行業務取扱管理者〔国家資格〕、旅程管理主任者、観光英語検定、日商PC検定文書作成、日商PC検定データ活用、日商PC検定プレゼン資料作成、TOEIC、実用英語技能検定、韓国語能力試験(TOPIK)、ハングル能力検定、中国語検定、HSK(漢語水平考試)、マナー・プロトコル検定、コミュニケーションマナー検定、サービス接遇実務検定、サービス介助士、全国手話検定、手話技能検定、普通教命講習																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,728 単位時間 単位	1,024 単位時間 単位	480 単位時間 単位	800 単位時間 単位	単位時間 単位	単位時間 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																															
60人	38人	1人	3%	5%																															
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>21</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>12</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>57</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 鉄道業界等</p>							■卒業生数(C)	21	人	■就職希望者数(D)	21	人	■就職者数(E)	21	人	■地元就職者数(F)	12	人	■就職率(E/D)	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	57	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%	■進学者数	0	人	■その他			
■卒業生数(C)	21	人																																	
■就職希望者数(D)	21	人																																	
■就職者数(E)	21	人																																	
■地元就職者数(F)	12	人																																	
■就職率(E/D)	100	%																																	
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	57	%																																	
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	100	%																																	
■進学者数	0	人																																	
■その他																																			
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>無</p> <p>評価団体: _____ 受審年月: _____</p> <p>評価結果を掲載したホームページURL _____</p>																																		
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.kanko-gaigo.ac.jp/course/railway/">https://www.kanko-gaigo.ac.jp/course/railway/</a>																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,728 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>64 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>96 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,728 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>64 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>96 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総単位数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の単位数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち必修単位数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td><td>- 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td><td>- 単位</td></tr> </table>							総授業時数	1,728 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	64 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	96 単位時間	うち必修授業時数	1,728 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	64 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	96 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総単位数	0 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	- 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	- 単位	うち必修単位数	- 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	- 単位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	- 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	- 単位
総授業時数	1,728 単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	64 単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	96 単位時間																																		
うち必修授業時数	1,728 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	64 単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	96 単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																		
総単位数	0 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	- 単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	- 単位																																		
うち必修単位数	- 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	- 単位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	- 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	- 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>1人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>1人</p>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計		1人										
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	0人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計		1人																																	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業との連携を通じ、最新の鉄道知識や鉄道技術を教育課程に反映し、実務的な専門知識を学生に提供することにより、社会貢献度が高まり、企業が求める人材育成に繋がる。  
また、インターンシップによる企業実習や施設見学を通じて得た意見も教育課程編成に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成会議は理事会の下、教務部の上位に設置し、企業等の意見等を把握・分析し教育課程編成に活用するための機関として位置付ける。

教育課程編成委員会で出された意見は、学科長と本校教務部とで実施されるカリキュラム検討会議で検討され、校長の承認を得て決定とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年8月1日現在

名前	所属	任期	種別
吉國 秀人	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 人間発達教育専攻 教育コミュニケーションコース 教授	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	②
川崎 祥司	阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部 運輸部副部長	令和5年5月1日～令和8年3月31日(2年11箇月)	③
安田 崇司	北大阪急行電鉄株式会社 鉄道事業部長	令和5年8月1日～令和7年3月31日(1年8箇月)	③
豊田 基行	本校 校長	学内の教職員については任期は定めず、組織変更や人事異動が生じた場合の業務分担等に鑑み、委員の交代を行う。	—
花尻 昌直	本校 教務事務職員		—
寺本 佳弘	本校 教務事務職員		—
高田 英典	本校 教務事務職員		—
木下 猛	本校 教務事務職員		—
瀬川 好美	本校 教務事務職員		—
小村 直子	本校 鉄道サービス学科専任講師(学科長)		—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、2月)

(開催日時(実績))

令和5年度第1回 令和5年8月4日 10:00～12:00

令和5年度第2回 令和6年2月27日 15:00～17:00

令和6年度第1回 令和6年8月27日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回目の委員会では、令和6年度教育課程表案を提示し、科目内容の説明を行った。委員から「お客様を大切に」という心構え、トラブル時では定められた対応を前提として適切な対応を意識させるなどの指摘を受け、「駅係員サービス」などの授業内容に組み入れる。第2回目の委員会では、第1回目の委員会の内容を反映、さらに新規科目について令和6年度カリキュラムとして報告・運用していくことを協議した。委員会から新規科目の「企画販売」は日本人と留学生の合同授業で、お互いのコミュニケーション力の向上、プレゼンテーション力や企画力養成につながり、「対話的な学び」を意識した良い科目であると評価をいただいた。また、令和7年度教育課程表へより良いカリキュラム編成を目指すことを確認した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学生が就職を目指す分野で、企業と連携して実習や演習を行い、最新の実践的かつ専門的能力を育成する。年度末には、次年度に企業から派遣される講師と共に、授業・実習の評価や試験への取り組みを講師会議で決定。授業終了時には、講師による講評と成績評価を行う。企業との連携を通じて、鉄道関連業務を体得し、就業時に即戦力として働ける力を養成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

① 運転実務 I

JR西日本メンテック社より運転指導担当講師を派遣してもらっている。当該講師の講義を含む演習内容に基づき、本校学生が鉄道会社に向きインターン実習を行う。また、鉄道サービス学科長とともに、授業運営を行い、評価を5段階(S・A・B・C・F)で行う。

② 観光総論

J&Jヒューマンソリューションズ社と連携し講師を派遣してもらっている。講義にとどまらず、その内容を実際に「見て」「聞いて」「感じる」ことを目的に鉄道サービス学科長と共にフィールドワークとして実地での研究活動を実施。こうした課外活動における成果も評価としている。

③ 鉄道アナウンス実習 I

ティアンドエスラボラトリー社と連携し講師を派遣してもらっている。アナウンスの基礎固めに主眼を置き、学習の進捗に応じてグループワークやペアワークを取り入れて正確な発音や内容の伝え方を学ぶ。講師は、鉄道サービス学科長と事前に、指導内容・評価基準等について協議し、期末試験において5段階(S・A・B・C・F)の評価を行う。

④ 鉄道アナウンス実習 II

ティアンドエスラボラトリー社と連携し講師を派遣してもらっている。1年次に学習した事を更に発展させる。指定された原稿あるいは指定されたシチュエーションを想定し自ら考え、判断し、その都度アナウンスする力を身につける。講師は、鉄道

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
運転実務 I	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	列車運行に必要な地上設備、停車場設備及び、安全を守るための様々な設備を習得する。	株式会社JR西日本メンテック
観光総論	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	観光資源、国内世界遺産、観光文化等を主に総合的学際的多面的に、観光の知識を習得する。	株式会社J&Jヒューマンソリューションズ
鉄道アナウンス実習 I	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	情報の正確な伝達を学び、共通語のアクセントも意識する。	株式会社ティアンドエスラボラトリー
鉄道アナウンス実習 II	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	緊急時等状況を把握して的確に伝えることを学ぶ。	株式会社ティアンドエスラボラトリー

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校の教員は、本校の「研修等に係る諸規程」により学校長が策定する研修計画に則り、職務と職責の遂行に必要な実務に即した最新の動向や業務知識などを習得し、学生指導に活かすことを基本方針とする。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 運転係、営業状況、運転指令所等の視察

連携企業等: 北大阪急行電鉄株式会社

期間: 2024年2月20日(火)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: 江坂運転係操車での出退勤の様子等の見学、千里中央駅駅長室等での営業状況見学、桃山台駅指令所での指令執務状況の見学等を通じ、専門的な指導力の修得及び向上を図る。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 要支援学生の就職について考える

連携企業等: 大学コンソーシアム大阪他

期間: 2023年7月10日(月)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: 『一般雇用』と『障害者雇用』の違いとメリット・デメリットについて ・質疑応答 ・大阪府からの施策説明

研修名: 知ることから始めよう みんなでつながるために  
～自閉スペクトラム症の理解～

大阪府発達障がい者支援センターアクトおおさか

期間: 2023年9月8日(金)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: 自閉スペクトラム症の脳の情報処理の仕方(学習スタイル)と、それらの強みを活かした支援の視点や環境調整の重要性について他

#### (3) 研修等の計画

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 新幹線運転士の訓練内容及び訓練施設の視察

連携企業等: 株式会社JR西日本メンテック

期間: 2024年9月9日(月)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: 大阪新幹線運転所シミュレーター訓練室において、事故や異常事態発生時の応急処置等を見学し、専門的な指導力等の修得及び向上を図る。

研修名: 運転係、運転指令室、駅舎、車庫線等の視察

連携企業等: 神戸電鉄株式会社

期間: 2024年9月13日(金)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: 運転係の役割分担、運転指令室の設備や指令・信号等、駅舎の設備や係員の様子、運転士養成車庫教育の様子等を見学し、専門的な指導力等の修得及び向上を図る。

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 障がい学生や要支援学生の就職について考える

連携企業等: 大学コンソーシアム大阪他

期間: 2024年9月11日(水)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: ケーススタディを通して学生支援を考える、学生とのかかわり方のポイント、グループワーク等

研修名: 教職員研修会(人権教育研修会6)

連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 2024年10月9日(水)

対象: 鉄道サービス学科 教員

内容: 「発達障がい等のある生徒が安心して学ぶために」-生徒指導-

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の結果を学校関係者(卒業生、保護者、関係業界、高等学校、大学等)が評価することで、自己評価結果の客観性・透明性を高め、学校運営の継続的な改善を図るため、「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修効果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	評価なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

(3)教育活動

【意見】入学時からの学修成果(スコアアップ)などで単位評価をしてはどうか。

【活用状況】TOEICなどの資格検定において、一定のスコアによる単位認定に加えて、伸長度合による単位認定を含める。

(5)学生支援

【意見】「ホームページに駿台あんしんサイト(仮称)の立ち上げ」「万一、就職した企業とのミスマッチが起こった際の再就職支援などの窓口設置」など学園を支えるネットワーク作りは重要な課題です。

【活用状況】本校にとって、「保護者との連携」「卒業生・社会人とのかかわり」が課題で、ホームページの改善、保護者・卒業生・社会人との連携がとれる体制づくりを整えてまいります。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
毛利 裕明	阪急電鉄株式会社 執行役員 都市交通事業 副本部長	令和5年5月1日～令和8年3月31日(2年11箇月)	企業等委員
菅田 智裕	CKTS株式会社 執行役員	令和6年8月1日～令和8年3月31日(1年8箇月)	企業等委員
町口 俊祐	帝国ホテル大阪 営業部営業課 副支配人	令和6年8月1日～令和8年3月31日(1年8箇月)	卒業生
草島 葉子	学校法人興國学園理事長 興國高等学校校長	令和6年8月1日～令和8年3月31日(1年8箇月)	高等学校
中岡 義久	学校法人西大和学園 大和大学 英語教育センター長 政治経済学部グローバルビジネス学科長	令和6年8月1日～令和8年3月31日(1年8箇月)	大学

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.kanko-gaigo.ac.jp/disclosure>

公表時期: 令和6年9月12日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

採用企業に対しては「今後卒業生を受け入れるために求めている知識・実技の習得や人材育成が行われている学校かどうか」「健全な学校運営がなされているかどうか」、近隣町会や地元企業に対しては「地域貢献などで学生と何か取り組めないか」、卒業生や保護者に対しては「学校がどのような教育活動を行っているか」などの情報を得る手段として、下記の理由からホームページでの公開を行っている。

- ① 不特定多数の人が閲覧できる
- ② 知りたい情報が常に掲載され、カテゴリ別に整理されている
- ③ 情報を見て問い合わせができる

公開情報の整理・開示・更新と問い合わせやご意見などの双方向で協力推進ができることを基本方針としている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	教育理念、教育目標、校長名・所在地・連絡先等、沿革
(2) 各学科等の教育	入学者に関する受入れ方針、入学定員、総定員、教育課程編成・実施の方針、入学から卒業までのスケジュール、時間割(例)、卒業・修了の認定の方針、進級・卒業の要件等、学習の成果として取得を目指す資格、合格を目指す検定等、卒業後の進路
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・就職支援等への取組状況、実習・実技等の取組状況、就職支援等への取組状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況、課外活動、社会貢献活動への取り組みにつ
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取扱い、活用できる経済的支援措置の内容
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果、評価結果を踏まえた改善方法
(10) 国際連携の状況	-
(11) その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.kanko-gaigo.ac.jp/disclosure>

公表時期: 令和6年8月1日

授業科目等の概要

(外国語専門課程 鉄道サービス学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			時刻表（ダイヤグラム）	時刻表の見方と使用方法の基礎的知識を学ぶ。列車運行図表（ダイヤグラム）の読み方を知る。	1前	32	2	○			○	○			
2	○			時刻表（運賃・料金）	JR、航空、バス、船舶、観光の知識を時刻表を基に学習し、行程、見積の作成方法を学ぶ。	2後	32	2	○			○	○			
3	○			国内観光地理	国内全般の幅広い観光地理知識を習得する日本旅行地理検定対策。	1前	32	2	○			○			○	
4	○			鉄道営業規則Ⅱ	鉄道会社の営業に関する規則の内容を習得・理解するとともに、規則と言う概念から鉄道を見る。	2後	32	2	○	△		○	○			
5	○			国内鉄道地理	鉄道路線を中心とした主要観光地や地域の名産品について学ぶ。	2後	32	2	○			○			○	
6	○			安全輸送	安全運行の保持を理解し、鉄道輸送に対する概念を身につける。	1前	32	2	○	△		○			○	○
7	○			車両の仕組み	列車の保安装置や車両保守の必要性と鉄道の安全対策を習得する。	2前	32	2	○			○			○	
8	○			鉄道基礎	鉄道の歴史を紐解きながら、鉄道の基礎から幅広く学ぶ。	1前	32	2	○			○			○	
9	○			パッセンジャー概論	鉄道の旅客サービスとパーサー業務の知識を学ぶ。	1前	32	2	○	△		○			○	
10	○			パッセンジャー実習	客室サービス専門乗務員としてワゴンサービスを中心とするパーサー業務を実践。	1後	32	2	○		△	○			○	
11	○			車掌業務	車掌業務における作業手順の理解や知識を深める。	2前	32	2	○	△		○			○	
12	○			車掌実習	実習を通して鉄道車掌の幅広い運転業務と営業業務を体得する。	2後	32	2			○	○			○	
13	○			客室乗務員サービス	接客サービスとあらゆる知識、接客技術を深め業界へ幅広く対応する。	1後	32	2			○	○			○	
14	○			駅係員サービスⅠ	鉄道駅、駅係員の基本業務等を学習し、プロとしての視点で鉄道駅に触れる。	1前	32	2	○	△		○			○	

## (外国語専門課程 鉄道サービス学科)

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			駅係員サービスⅡ	就職後すぐの配置である駅係員の業務の他、列車利用以外の駅の役割を学ぶ。	2通	64	4	○	△	○				○	
16	○			鉄道業界比較論	鉄道事業の種類や職種を学び、JR及び大手鉄道会社の概要を知る。	1後	32	2	○		○			○		
17	○			運転実務Ⅰ	列車運行に必要な地上設備、停車場設備及び、安全を守るための様々な設備を習得する。	1後	32	2	△	○	○				○	○
18	○			運転実務Ⅱ	停車場の形態、信号と閉そくの関係、運転操縦の模擬体験をさせ、責任の重大性を認識させる。	2後	32	2			○	○			○	
19	○			鉄道バリアフリーⅠ	公共交通機関や旅客施設でのバリアフリー状況とその基礎知識を学ぶ。	1後	32	2	○			○			○	
20	○			鉄道バリアフリーⅡ	公共交通機関や旅客施設でのバリアフリー状況を踏まえ実習で体得する。	2前	32	2			○	○			○	
21	○			万国博研究	2025年の関西万博を見据えて、近年の情報科学や産業の発達を万国博を通じて学ぶ。	2後	32	2	○			○		○		
22	○			企画販売	お客様に買ってもらえる商品を作り出す方法、およびその商品をどのように売るかを学ぶ。	2前	32	2			○	○			○	
23	○			観光総論	観光資源、国内世界遺産、観光文化等を主に総合的学際的多面的に、観光の知識を習得する。	2後	32	2	△	○	○				○	○
24	○			鉄道アナウンス実習Ⅰ	情報の正確な伝達を学び、共通語のアクセントも意識する。	1前	32	2			○	○			○	○
25	○			鉄道アナウンス実習Ⅱ	緊急時等状況を把握して的確に内容を伝えることを学ぶ。	2後	32	2			○	○			○	○
26	○			鉄道旅行プランニングⅠ	企画提案の方法を学び、他人に企画内容を十分に理解してもらえる技術を習得する。	1後	32	2			○	○			○	
27	○			鉄道旅行プランニングⅡ	鉄旅オブザイヤーのコンテスト出品作品が最優秀獲得レベルまで完成させることに注力する他。	2通	64	4			○	○			○	
28	○			一般教養時事社会	最新の時事問題及び一般教養としての時事に関する知識を概括的に提供し、時事社会に関する基礎的知識を習得する。	1通 2通	128	8	○		○				○	



(外国語専門課程 鉄道サービス学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
29	○			一般教養数学	SPIやWebテストのために、四則計算・文字式・方程式・割合等の習得や速算術を学ぶ。	1前	32	2	○	△		○			○	
30	○			Webテスト対策数学	企業筆記試験（主にSPIの非言語領域）で出題される典型問題を知る。	1後 2前	64	4	○	△		○			○	
31	○			ビジネススキル	社会人としての基本的立ち居振る舞いと正しい言葉遣いを習得する。	1通 2通	128	8	△	○		○			○	
32	○			インタビュー対策	就職試験時の面接に挑めるよう、基本的な面接対応の基礎を実践。	1後	32	2				○	○		○	
33	○			グループディスカッション	自身の位置づけや発言だけでなく傾聴姿勢なども学び、就職選考のグループディスカッションに備える。	1後	32	2				○	○		○	
34	○			面接対策	企業の採用面接で成果を出すために必要な知識を習得し、自己PRや適切な表現方法を身に付ける。	2前	32	2				○	○		○	
35	○			ライティングスキル	前半では様々な設問に対応できる力、文章にする力を付け、後半では鉄道関連の資料の要約、自身の意見を論理的に書く力を身に付ける。	2前	32	2	△	○		○			○	
36	○			プレゼンテーション	言葉を選び話し伝えることを基本にしてプレゼンテーション技法の基礎を身に付ける。	2前	32	2	△			○	○		○	
37	○			ビジネスマナー検定対策	接客業に欠かせないサービスマインドを理解し身に付けるため、「サービス接客検定」の2級、準1級合格を目指す。	1後	32	2	○			△	○		○	
38	○			手話	手話の基本 指文字や挨拶などを知る。	1前	32	2				○	○		○	
39	○			鉄道適性対策	鉄道会社の採用試験（主に筆記試験及び適性試験）で求められる知識やスキルを習得する。	1通 2前	96	6	△	○		○			○	
40	○			キャリアスタディ	主にエントリーシート等の書き方をはじめとする就職対策時間。	2前	32	2		○		○			○	
41	○			キャリアガイダンス	履歴書・自己PR等の書き方をはじめとする就職対策時間。	1後	32	2		○		○			○	
42	○			文章表現	SPIの「言語分野」対策として、前半では「語句」分野を、後半には「文章読解」分野を学ぶ。	1前	32	2	○	△		○			○	

(外国語専門課程 鉄道サービス学科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
	○			鉄道英会話	訪日外国人が再び増加している事に鑑み、駅及び車内にて鉄道員の英語による対応能力を身につける。	1通2通	128	8	△	○	○				○	
	○			観光サービス研究	鉄道にまつわる博物館、工場、企業、公共機関などで校外学習を行い、理論だけでは得られない知識や経験を身に付ける。	1通2通	64	4		○		○	○			
			○	観光就職対策入門（短期集中）	観光業界での就職に向け、自己分析、業界の動向把握、応募書類の作成方法、面接対策などを通じて就職活動において自信を持って臨めるようにする。	1前	32	2	△	○	○			○		
			○	セルフメイクアップ実習	就職活動に必要な「清潔感」「品性」「親しみやすさ」を感じる社会人として相応しいメイクの基礎とヘアセットを学ぶ。	1後	32	2	△	○	○					○
			○	総合管理者対策（短期集中）	旅行会社で旅行商品を販売するために必要な国家資格対策として、業法約款等を学ぶ。	1前	32	2	○			○		○		
			○	国内旅程管理研修（机上/実地）	添乗員としての心構え、仕事の背景としての旅行市場等、あらままと仕事をしていく上での責任について学ぶ。	1前	32	2	△	○	○	○	○			
			○	学園祭	学生が主体となってクラスでの出し物を考え実行し、チームワークやコミュニケーション能力を養う。	1後2後	32	2		○	○			○		
			○	TOEIC試験対策	単語、英文の音読、文法説明、リスニングのトレーニング、TOEIC公式問題集を使って演習する。	1通	64	4	△	○		○				○
			○	第二外国語（中国語/韓国語）	簡単な日常挨拶や自己紹介ができることを目指す。	1通2通	128	8	○			○				○
			○	産能短大教科	産能短大ビジネスコミュニケーションコースの履修科目を学ぶ。	1通2通	64	4	○	△		○				○
合計						52 科目	144 (2304) 単位 (単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：所定の修業年限以上在学し、課程を修了したと認められた者		1学年の学期区分	2期
履修方法：必修科目は必ず履修しなければならない。		1学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。